

新鮮な魚介類が歓待してくれる 鳥取のセーリングシーン

地元セーラーのディレクションお届けする本シリーズ、今回は全国でもっとも人口が少ない鳥取県を紹介。必然的にセーラー人口も少ないながら、少数精鋭でユニークな活動をつづけている。

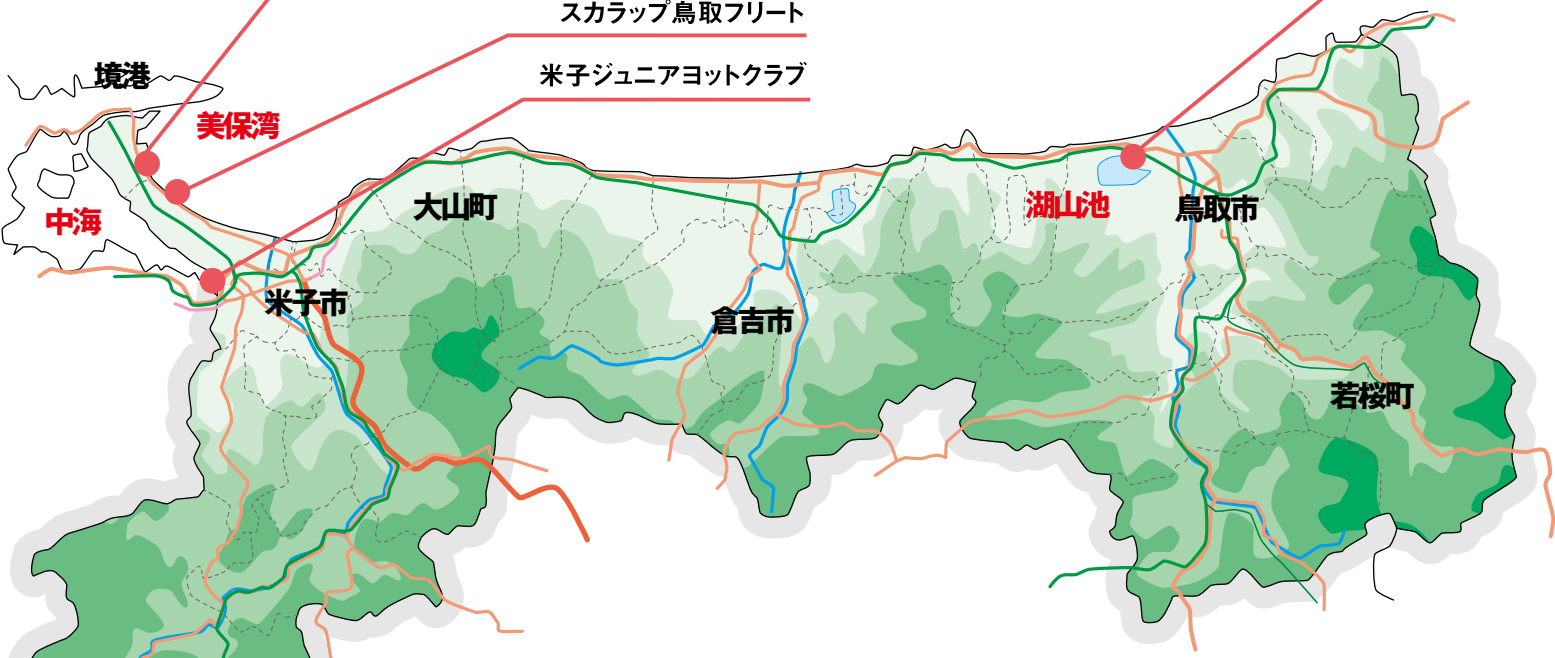
ディレクター／富田博司（鳥取県セーリング連盟理事長）

境港公共マリーナ
鳥取県セーリング連盟
美保湾ヨットクラブ
レーザー境フリート
境港総合技術高校・境高校・米子
高等専門学校

クローバーリーフ・セーリングクラブ
鳥取大学ヨット部
鳥取外洋ヨットクラブ

スカラップ鳥取フリート

米子ジュニアヨットクラブ



鳥取のヨット

鳥取県にヨットが浮かんだのは1955年の頃。有志が中海でクルージングを楽しみ、ディンギーで遊んだのが始まりです。その後、鳥取県ヨット連盟を立ち上げ県体協及び日本ヨット協会に加盟しました。

私自身が大学に入りヨットを始めた79年には、鳥取市の湖山池で鳥取大学ヨット部が活動し、B&G財団や実業団の三洋電機も活動していました。また、県の西部では中海の米子港で米子ジュニアヨットクラブ、境港の中浜港でレーザー境港フリート、米子高専ヨット部、境水産高校ヨット部が活動し、クルーザーも米子港、崎津港などに係留し、クルージングなどをしていました。

その後85年に開催された鳥取国体「わかとり国体」に向けて県としての体制作りが始まり、現在の活動拠点となっている境港公共マリーナに移動し、美保湾で活動するようになりました。

国体以降、境港公共マリーナではFJワールドを開催し、スナイプ、470、レーザーなどの全日本選手権を開催、95年にはインターハイも開催しました。現在も様々な大会、ヨットスクール、体験イベントを行っています。

日本一人口の少ない県で、海と風を楽しみながら活動し、近年ではJSAFナショナルチームの合宿も行われています。

現在の県内の活動は東部の湖山池で鳥取大学ヨット部とクローバー

リーフ・ヨットクラブ、中海では米子ジュニアヨットクラブが活動しています。ここでは環境問題を正面から捉え、ラムサール条約の趣旨をくみ中海・宍道湖をきれいにする取り組みを行っています。

そして、境港公共マリーナを拠点としてクルーザーの美保湾ヨットクラブ、ディンギーでは境高校、境港総合技術高校、米子高専のヨット部及びOB&OG、レーザー境港フリート、少し南に下がった砂浜でウインドサーフィンのスカラップ鳥取フリートが活動しています。

問題点もあります。境港公共マリーナは25年前の国体時は出入港も安全にできる素晴らしいハーバーでしたが、ここ数年来ハーバーの出入り口に砂が堆積し、毎年ハーバー入り口の砂を浚渫して対応しています。膨大な予算を毎年投じながらです。今後いつハーバーが砂で埋まってしまうのかと思うと不安です。しかしマリンスポーツを海の仲間全員で楽しむことを考え、それぞれの団体が協力しながら活動を行っています。

セーリング人口が少ない県ですが、海と風に恵まれた環境の中でマリンスポーツを多くの方々に体験してもらいたいと思っています。いつでも境港公共マリーナに来て声をかけて下さい。日本1周クルージングをされている方は境港公共マリーナに寄港して下さい。新鮮な魚介類を準備してお待ちしています。（富田博司／鳥取県セーリング連盟理事長、境港総合技術高校ヨット部顧問）



境港公共マリーナの出入り口に堆積する砂山



境港公共マリーナのディンギーヤード

境港公共マリーナを拠点とする鳥取県セーリング連盟ではゴールデンウィークに行う高校生の大会を支援しています。毎年100艇ほどが集まりビッグレースとなっていますが、わかとり国体の強化策として、近県の高校生のレベルアップをする目的で始めた大会であり、今では多くの実業団、大学生レーサーも参加し、目的は達せられたと思います。

本県で育ったOB、OGが手伝って大会運営を支え、現在はFJとSRで大会を開催しています。

またウインドサーフィンのスカラップ杯、クルーザーの大漁カップ、普及活動として体験クルージング、ヨット・ウインド教室、小学生のヨット教室などを支援しています。

1

高校生が集う境港公共マリーナ



今年のゴールデンウィークに行われた高校生の大会

4

ウインドサーフィンで街づくりを目指す境港市



境港市はウインドサーフィンと水木ロードで売出し中です (写真協力/©水木プロ)

鳥取砂丘の発達によってできた潟湖である湖山池。湖岸線は全長約16kmあり、「池」と名がつく湖沼では「日本一大きい池」である。池とはいえ十分な帆走水面を確保でき、安全に活動できる鳥取県東部唯一のセーリング拠点となっている。1961年にディンギーが初めて持ち込まれた。ここで活動しているのは、鳥取大学ヨット部とクロバーリーフ・セーリングクラブである。

鳥取大学ヨット部は現在、中国地方最大規模の38人を擁し、全日本インカレ上位入賞をめざして活動している。部員が多く、出艇数が多いので活気ある練習を行っている。海とは違い、潮流がなく、閉鎖的な限られた水面、浅い水深と他水域の大学と比べると決して恵まれた環境とは言えないが、大学キャンパスからとても近いという利点もある。(村木博/鳥取大学ヨット部主将)

一方、89年に設立されたクロバーリーフ・クラブは、ここ数年間ジュニアの減少により活動休止状態であったが、湖畔にある小学校の児童15名を中心に、09年に「クロバーリーフ・セーリングクラブ」として再結成。週末にB&G海洋センターを拠点として練習に励んでいる。ジュニアメンバーの保護者も一緒にセーリングを楽しむなど、鳥取市のセーリング人口の拡大を担っているクラブである。(新家憲一郎/クロバーリーフ・セーリングクラブ事務局長 <http://www.ncn-t.net/cloverleaf/>)

また、外洋艇でクルージングやレース活動をするのが鳥取外洋ヨットクラブ。会員数40名、艇

2

日本一広い湖山池で活動



鳥取大学ヨット部の練習風景



砂丘の沖でセーリングを行う鳥取外洋ヨットクラブのメンバー

数22艇で、鳥取砂丘横の鳥取港をホームポートに、クラブレースやクルージングのほか、地元NPOとの共催で体験クルージングや港内清掃の活動を<Wind-Staff>の岸田悟代表のもとで行っている。



09年に再結成されたクロバーリーフ・セーリングクラブは鳥取県のセーリング人口拡大を担う



1975年に弓ヶ浜クルージングクラブ(YCC)として産声を上げ、80年に鳥取県外洋ヨット協会(TOYA)に改組し、09年4月1日より気持ちも新たに海の遊び人が集まり、鳥取県で一番歴史ある外洋クルーザーのヨットクラブとしてNPO法人美保湾ヨットクラブ(MBYC)に移行しました。

海が好き、美味しい料理、美味しいワイン&ビール、男の料理、大人の話題を楽しみ共感できる健康な境港市・米子市在住の20歳代から60歳代の老若男女が中心のクラブです。

美保湾と境港公共マリナーをベースにヨット体験教室やヨットレース・長距離(海外含む)クルージングを楽しんでいます。(美保湾ヨットクラブ・井田幸成／鳥取県セーリング連盟理事 <http://mbyc-or.jp>)

■今年の事業、クラブレース

- ◎NPO法人として、広くヨット遊びを一般市民の皆様様に体験して頂く企画として、4月より毎週「金」「土」「日」の3日間無料でヨット体験クルージングを行います。
- ◎韓国(東海市)親善クルージング
- ◎第30回隠岐レース
- ◎カノン杯大漁カップレース
- ◎船澤杯ロングレース
- ◎みたと祭り体験航海
- ◎ポイントレース(R1~R10)



カノン杯大漁カップレースの様子

3

歴史を誇る美保湾ヨットクラブ

5 環境意識が高い 地中海のジュニアたち

地中海は、宍道湖と日本海を結んだ中間に位置した汽水湖で、周辺は緑に囲まれ水鳥のあふれる湖でもあり、かつては周辺の子どもの格好の泳ぎ場として親しまれて参りました。

その海で、1976年10月に鳥取県ジュニアヨット協会の発足を発案し、当時の鳥取県ヨット連盟の吉岡先生、澤先生、長井先生方に相談し発足することができました。

発足当時の鳥取県ジュニアヨット協会は、林さんと私の2人からスタートし、2人の子どもの選手という少数のスタートでした。

ヨットさえもない状態でスタートしたため、まずはオプティミストディンギー製作から始まりました。夜な夜な車庫で製作に励み、20日間かけてようやく第1号艇ができ、練習らしい練習がスタートしましたが、当然、1隻ではならず、すぐに第2号艇製作と大変な作業の末、各艇が完成しました。大工さんからは「タヌキ船」だとかまわられたものでした。

その後、B & Gよりいただいた3艇が初めてのFRPのオプティミストディンギーでした。

85年頃になると、選手も増えて2桁になりそれに合わせて艇数も徐々に増え、全選手にヨットが行きわたるところまでたどり着きました。

85年に鳥取県で「わかとり国体」が開催されることとなり、国体の成功を祈って子どもたちが、鳥取県賀露港から境港公共マリナーまで、OPで3泊4日で真っ黒に日焼けしながら無事に走り抜きました。

この経験が子どもたちに大きな自信となり、子どもたちから「夏休みに隠岐の島に行きたいのでお願いします」と持ちかけられ、

86年元旦から公共マリナーで合宿をし、強風の中の猛練習を行い、その年の7月25日、鳥根県多古島を朝5時に出港し14時間かけて渡りきりました。

その後も、鳥根半島一周や宍道湖一周、隠岐の島から本土へとロングクルージングを行ってきました。その体験が子どもたちをさらに大きく成長させ、「クロズホール」「ランニング」と上手に走らせることができるようになり、レースで好成绩を収めるようになりました。

その後年月がたち、少子化問題の影響からか子どもも随分と減ってきましたが、一昨年の秋から山間部の小学校のプールでヨット教室を開催し、昨年からは米子市内の小学校のプールでもヨット教室を数カ所行うようになりました。その努力が実り、現在、米子の小学生と山間部から1人、月2回ではありますが練習に参加してくれています。

たとえプールでも3、4年もすれば海に出てくれると思います。何事も継続は力なりで頑張ってください。

また、ヨットを通じて成長したのは技術面だけではなく、自分たちが練習している地中海の環境についても考えるほどに成長してくれました。そのおかげで発足当時は数人の少ない協会で長続きするのも不安な協会も現在に至っています。

現在はOB、OGの活動を継続して、「泳げる地中海の再現」をめざしジュニアヨットクラブで中海護岸清掃を毎月行なっています。子どものみならず多くの大人の方や鳥取県ヨット連盟の方々にも協力をいただきながら今後も続けてまいります。(米子ジュニアヨットクラブ・内藤武夫／日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

スカラップ鳥取フリート協会は、通称「マウイ」を拠点に活動しているウインドサーフィングクラブで、1981年に設立し、今年で30年の節目を迎えます。

「マウイ」は、白砂青松が連なる「弓が浜」に位置し、目の前に広がる青い海「美保湾」からは、伯耆富士と呼ばれる「大山(だいせん)」など風光明媚な自然を一望してのセーリングを楽しむことができます。

当協会では、毎年7月に、スカラップ杯ウインドサーフィン大会を開催し、国体選手や大学生、地元ウインドサーファーが熱いバトルを繰り広げています。また、毎週末には各県から選手が集まり、国体などの練習会を行なっています。

一方、当協会では、技術の向上を目指すだけでなく、「マウイ」周辺の植栽や砂浜のゴミ拾いなどボランティア活動を行っているほか、ウインドサーフィンの楽しさや魅力をより多くの方に伝えるための体験教室を開催するなど、社会貢献活動や、マリンスポーツの普及活動にも努めています。

現在、境港市では、日本海の新鮮な魚や、全国的に有名な水木しげるロードをPRするため「さかなと鬼太郎のまち」をキャッチフレーズに全国に向けて情報発信しています。連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放映により水木しげるロードがさらに注目されています。今後は「ウインドサーフィンのまち」としても認知されるよう活動していきたいと考えていますので、皆様ぜひとも境港市にお出かけください。(作野達雄／スカラップ鳥取フリート代表)



スカラップ鳥取フリート協会の活動シーンの数々